

(5) 種子島地域

ア 概況

本地域は、県本土の南方約40kmに位置する種子島(444.86 km²)とその西方約12kmに位置する馬毛島(8.17km²)の2島からなっている。

行政区域については、種子島は西之表市、中種子町、南種子町の1市2町に分かれており、馬毛島は西之表市に属している。

イ 自然

種子島は、北北東から南南西に細長く伸びた中くびれの紡錘形をした島で、島内は丘陵性の山地が連なり、最高点も282mと比較的低平で、中部から南部にかけては、段丘台地が発達しているほか、島の南部海岸付近にはかなり広域にわたって沖積低地がみられる。

また、馬毛島は、最高点71mの極めて低平な島である。

気候は、黒潮の影響を受け、温暖であるが、台風常襲地帯にあたるので、農作物等の被害が大きい。

ウ 沿革

種子島は、いつ頃から人が住みついたか定かではないが、後期旧石器時代初頭には人が生活し、その文化は古代中国文化の影響を受けたかなり高いものであったことが推測されている。

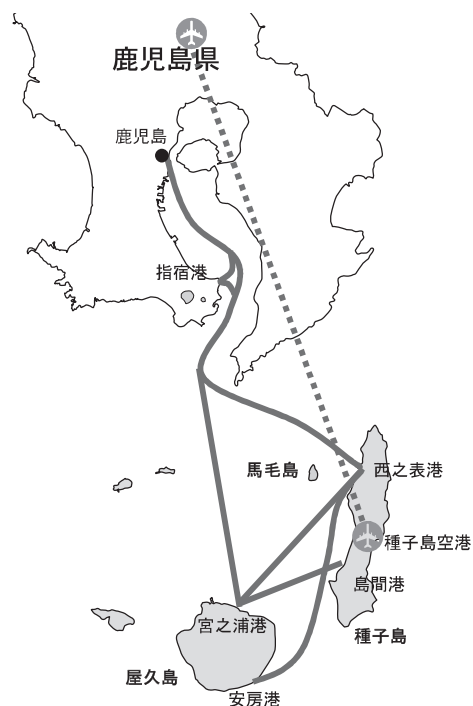
昔の種子島は、「多禰島」または「多丈島」の字で表わされ、大和国家との接触があったことが、日本書紀や古事記に残されている。また、この島の近海が我が国と唐との交流ルートの一つとなり、足利時代には明国との貿易に際して渡明船の造船基地、出帆基地として利用されたと伝えられている。

中世には、近衛家の荘園を経て、鎌倉時代から明治維新まで約700年間は種子島氏の統治下におかれ、天正年間に島津氏の支配下に入った後も種子島氏による自治領的な形が保たれ、鹿児島本土との交流のみならず、畿内との交易をはかり、中央文化の影響を受けて独自の文化、経済圏を形成した。この間、種子島では、天文12年(1543年)、南蛮人の漂着により鉄砲が伝来し、元禄11年(1698年)には、島主の勸農政策により琉球から贈られた甘しょの栽培が奨励され、やがて全国に普及するなど、近代日本に多大な影響を与えた。

また、開田、製塩、製鉄方法の導入など諸般の施策が進められ、明治以降も第1次産業を中心とした島の振興が図られた。

行政面では、明治18～22年の間は屋久島とともに大島郡金久支庁の管轄となったが、明治22年に種子島郡役所が独立し、明治29年に熊毛郡役所に改称、大正15年に郡役所の廃止により熊毛支庁の管轄となり、現在に至っている。なお、西之表村は大正15年に町制を、昭和33年に市制を敷き、中種子村は昭和15年に、南種子村は昭和31年に、それぞれ町制を敷いた。

種子島地域の人口は、平成27年国勢調査では、29,847人(西之表市15,967人、中種子町8,135人、南種子町5,745人)で、平成22年国勢調査より2,018人(西之表市984人、中種子町561人、南種子町473人)減少しており、減少傾向にある。



エ 交通・通信

本土との交通体系については、鹿児島～種子島（西之表港）間にジェットfoil及びフェリーによる定期航路が運航されており、また、鹿児島空港～種子島空港〔約30分、1日4便〕の定期航空路がある。

さらに、本地域と屋久島地域との間にも定期航路が運航されている。

航路現況

（平成30年4月1日現在）

航路（又は区間）	航路距離	所要時間	運行回数	船舶名	総トン数(t)	旅客定員
鹿児島～西之表	117.8km	3:30	1便/日	プリンセスわかさ	1,864	222人
鹿児島～西之表	115.0km	3:40	1便/日	はいびすかす	1,798	212人
西之表～宮之浦	55.0km	2:00				
鹿児島～西之表	113.5km	直行便 1:35	6便/日	トッピー2	163	253
		指宿、宮之浦経由 1:55～3:05		トッピー3	164	246
指宿～西之表	73.5km	直行便 1:05	1便/日	トッピー7	281	253
		宮之浦経由 2:20		ロケット	165	241
西之表～宮之浦	54.6km	0:50	1.5便/日	ロケット2	164	241
～安房	60.4km	0:50	1.5便/日	ロケット3	164	235
島間～宮之浦	30.0km	1:05	1便/日	フェリー太陽	499	100

※トッピー・ロケットは夏ダイヤ、所要時間は各港の停泊時間を含む。

島内交通については、国道58号をはじめとして道路網はおおむね整備されているが、屈曲箇所、幅員狭小箇所も一部残る。

また、公共交通機関としてバス事業者の運行する定期路線バスがあり、併せて市町独自のコミュニティバスやデマンド型の乗合タクシーがそれぞれ地域住民に不可欠な公共交通機関として運行されている。

漁港は19港あり、逐次その整備が進められている。

港湾については、重要港湾西之表港のほか地方港湾19港あり、逐次その整備が進められている。

また、種子島空港は、ジェット機対応の滑走路（2,000m）が整備されている。

情報通信基盤については、種子島と本土の間は、海底光ケーブルが敷設されている。西之表市では、平成22年度に国の補助事業を活用して馬毛島を除く市内全域に光ファイバ網が整備されている。中種子町及び南種子町ではADSLサービスが提供されているが、平成29年度に町内一部で光ファイバによる超高速ブロードバンドサービスが開始された。残るエリアについても、平成30年度に整備され、町内全域をカバーする予定である。

携帯電話については、ほぼ全域がサービスエリアになっている。

テレビについては、地上波テレビ放送のデジタル化に伴う「新たな難視」地区が一部に存在していたが、共聴施設の新設や高性能アンテナの設置により解消されている。

新聞については、本土から直接船便で運ばれるため配達時間が午後になる。また、悪天候による欠航があった場合は、翌日以降にまとめて配達される。

オ 社会環境

（ア）水道・電気

水道については、ほぼ全戸に普及しており、西之表市では西京ダムの完成により、通常は十分な水量が確保されているが、干ばつなど気候に左右される課題がある。

また、既設地区においては施設の老朽化、水道水源の水量不足等の問題があることから、施設整備を進めているところであり、今後も引き続き施設の更新を行う必要がある。

電力については、島内の発電所により全地域に供給されている。

（イ）廃棄物処理

ごみについては、西之表市と中種子町は一部事務組合で、南種子町は単独で焼却処理などを計画的に行っている。

また、し尿処理については、西之表市は単独で平成28年1月施設供用開始の汚泥再生処理センター、中種子町と南種子町は一部事務組合により平成15年3月に設置された汚泥再生処理センターで、それぞれ

れ施設処理を行っている。

下水道については、これまでに雨水対策として都市下水路が6路線整備されている。

(ウ) 医療

医療については、病院4施設、一般診療所7施設、歯科診療所12施設がある。そのうちの1つの診療所については、平成19年5月に島内唯一の産婦人科医院が診療停止を表明したことに伴い、1市2町で費用負担し平成20年1月、公立の産婦人科医院を設置したものであり、平成28年4月からは新種子島産婦人科医院として移転開院している。

救急医療については、島内の医療機関で対応するとともに、県及び自衛隊のヘリコプター等により、鹿児島市の医療機関へ緊急搬送している。

(エ) 福祉

本地域の老年人口比率は、平成27年の国勢調査で34.5%となり、急速な高齢化が進行しており、高齢者に対するサービスの向上が求められている。

老人福祉施設としては、西之表市に特別養護老人ホーム、介護老人保健施設及びデイサービスセンター、中種子町に特別養護老人ホーム、養護老人ホーム及びデイサービスセンター等、南種子町に特別養護老人ホーム及びデイサービスセンター等が設置されている。

また、在宅の要介護者等からの総合的な相談に応じる地域包括支援センターが各市町に設置されている。

このほかの社会福祉施設としては、保育所6か所、幼保連携型認定こども園2か所、児童館2か所、障害者支援施設2か所、障害福祉サービス事業所10か所などがある。また、中種子町及び西之表市においては、それぞれ保健センターが整備されている。

(オ) 公園

地域住民のスポーツ、レクリエーション需要の増大に対応して都市公園等の整備が図られている。

西之表市では、種子島で唯一のダムである西京ダム周辺に総合レジャー施設「あっぱ〜らんど」が整備されている。

中種子町においては中種子中央運動公園が、また、南種子町では宇宙ヶ丘公園やロケット打上げ見学所としての長谷展望公園や恵美之江展望公園等が、整備されている。

(カ) 教育

本地域には、公立の小学校26校、中学校3校、高等学校2校、特別支援学校1校が設置されているが、小学校のうち1校が休校中である。また、児童生徒数が年々減少の傾向にある。

カ 産業

(ア) 第1次産業

農業については、温暖な気候と平坦な畑地に恵まれ、さとうきび、さつまいも等の畑作物や、肉用牛、酪農等の畜産に加え、早出し産地としてのばれいしょ等の輸送野菜、米及び茶に加え、葉たばこ、かごしまブランドであるマンゴー、レザーリーフファン等の生産振興が図られている。

台風等の自然災害の軽減、シカ等による農作物被害の防止、予冷施設等の整備、輸送コストの低減、農業従事者の高齢化に伴う担い手の確保等の課題が残されている。

これまでほ場整備、農道整備等の生産基盤整備が進められており、整備率について、農道整備は県平均を上回っているが、ほ場整備、畑地かんがいでは県平均を下回っている。

林業については、森林面積のほとんどが民有林で広葉樹林が多いが、内陸部には、まとまりのあるスギ人工林地帯が形成されており、現状は除間伐段階が大部分であるが、伐期を迎える林分も出始めている。主な林産物としては、パルプ原料用材、建築用材、バイオマス原料用材、しきみ・ひさかき等の枝物のほか、つわぶき等の山菜類が生産されている。

水産業については、漁船はほとんどが5トン未満で経営規模は零細であるが、周辺海域にキビナゴ、トビウオ、イカ類、イセエビ、トコブシ、瀬物等の好漁場を有しており、漁港及び関連施設の整備と相まって沖合漁場へも進出している。しかしながら、水産資源は減少傾向にあり、魚価の低迷、後継者不足等の課題も依然として残されている。

(イ) 第2次産業

公共土木を中心とする建設業のほかに、主な製造業として、さとうきびを原料とする製糖工場、甘しょを原料としたでん粉精製工場、ロケットの固体燃料充填工場がある。このほか地場産業として、農水産物加工の食料品製造業、窯業のほか、焼酎や種子鉄等の特産品の製造業などがあるが、そのほとんどが小規模の零細企業である。

農産物加工については、さとうきびを原料とする黒糖や、さつまいも、赤米等の地域特産物を利用した菓子等の製造が行われている。

(ウ) 第3次産業

地域の中心である西之表市に商業、公務等の集積がみられるほか、ホテル等の観光関連産業等の発展がみられる。

観光については、美しい海岸線をはじめとする豊かな自然に加えて、世界一美しい射場といわれる種子島宇宙センター、鉄砲伝来の地など特色のある観光資源を有しており、農林漁業体験や民泊を行うグリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズム、また、サーフィン、ダイビング、シーカヤックなどのマリンスポーツのほか、サイクル・ツーリズム、ドラマやアニメの舞台となった地域を巡るアニメ・ツーリズムといった新たな滞在型観光が推進されている。

(6) 屋久島地域

ア 概況

本地域は、県本土の南方約60km、種子島の南西18kmに位置する屋久島(504.89km²)と、その西北西約12kmに位置する口永良部島(35.77km²)の2島からなっており、行政区域は、屋久島町に属している。

イ 自然

屋久島は、九州最高峰宮之浦岳(1,936m)をはじめ千メートル以上の高峰45座を擁する山地が大部分を占める円形の島で、山裾は西部海岸では急斜面をなして海岸に臨んでおり、東部海岸は海岸線から約2kmの幅で海岸段丘状がとりまいている。

口永良部島は、霧島火山帯に属し、島の東南部の中央には新岳(657m)が火山活動を続けており、島全体が火山性土壌に覆われている。

平成27年5月29日に、この新岳で爆発的噴火が発生し、屋久島町の避難指示発令に伴い、住民全員が島外に避難した(現在は避難指示が解除され、多くの住民が帰島している)。

気候は、海岸部は黒潮の影響を受け温暖であるが、屋久島の山頂部は積雪があるなど極めて変化に富んでおり、亜熱帯から冷温帯に至る植生の垂直分布が見られる。夏秋季には台風に見舞われ、冬季の季節風も強い。

また、屋久島は、国の特別天然記念物に指定されている「屋久島スギ原始林」等、優れた自然環境が世界的にも高い評価を受けており、平成5年12月世界遺産条約に基づく自然遺産として登録されている。

平成17年11月には屋久島永田浜がラムサール条約に、平成28年3月には屋久島・口永良部島の全域がエコパークとして拡張登録され、日本初の「ユネスコ三冠のまち」となった。

ウ 沿革

屋久島は「益救島」とも呼ばれ、古代大和国家時代から既に中央との接触をもっていたと考えられる。屋久島の森林資源の沿革については、寛永年間に、藩儒泊如竹翁が進言したことにより、宮之浦に郡司が置かれ、一種の林政が行われ、貴重な資源として屋久杉の伐採が始まった。その後は島津藩の直轄領地として明治時代を迎えている。

明治19年には、屋久島は、鹿児島大林区署の管轄下に置かれ、大正13年には、屋久島営林署が設置された。本格的な官行伐採が始まり、その後の屋久島の開発は、営林署事業の盛衰によって大きな影響を受けた。その間、営林署により永田～宮之浦～安房～栗生間の併用林道が設置され、それが現在の屋久島循環線の基となっている。

地域人口は、平成27年国勢調査では12,913人である。人口動向は、平成2年13,860人、平成7年13,595人、平成12年13,875人、平成17年13,761人、平成22年13,589人で、増減率は、平成2年から平成7年が1.9%減、平成7年から平成12年については2.1%の増加に転じ、平成12年から平成17年については0.8%の減、平成17年から平成22年については1.2%の減、平成22年から平成27年については5.0%の減となっており、減少傾向にある。



エ 交通・通信

本土との交通体系については、鹿児島～屋久島間にジェットfoil及びフェリーによる定期航路が運航されており、また、鹿児島空港～屋久島空港〔35分、1日6便〕、大阪国際空港～屋久島空港〔約80分、1日1便〕、福岡空港～屋久島空港〔約65分、1日1便〕の定期航空路がある。

さらに、屋久島と口永良部島、屋久島と種子島との間にも定期航路が運航されている。

航路現況

(平成30年4月1日現在)

航路(又は区間)	航路距離	所要時間	運行回数	船舶名	総トン数(t)	旅客定員
鹿児島～宮之浦	135.0km	4:00	1便/日	フェリー屋久島2	3,392	450人
鹿児島～宮之浦	135.0km	西之表経由 6:30	1便/日	はいびすかす	1,798	212人
西之表～宮之浦	55.0km	2:00				
鹿児島～宮之浦	135.0km	直行便 1:50 指宿、西之表経由 2:00～3:00	4便/日	トッピー2	163	253
				トッピー3	164	246
鹿児島～安房	146.3km	直行便 2:00 西之表経由 2:30	2便/日	トッピー7	281	253
				ロケット	165	241
指宿～宮之浦	93.0km	1:15	1便/日	ロケット2	164	241
西之表～宮之浦	54.6km	0:50	1.5便/日	ロケット3	164	235
～安房	60.4km	0:50	1.5便/日			
島間～宮之浦	30.0km	1:05	1便/日	フェリー太陽	499	100
口永良部～宮之浦	45.0km	1:40	1便/日			

※トッピー・ロケットは夏ダイヤ、所要時間は各港の停泊時間を含む。

島内交通は、屋久島については主要地方道が海岸線に沿って島を一周しており、バス事業者の運行する定期路線バスが地域住民や観光客等の交通手段として運行している。一方、屋久島の主要観光地であるヤクスギランド、紀元杉等へ通じる一般県道屋久島公園安房線や、自然休養林白谷雲水峡へ通じる県道白谷雲水峡宮之浦線については屈曲箇所、幅員狭小区間が大半であるため整備を進めている。

港湾・漁港は22港あり、逐次その整備が進められている。

また屋久島空港は、DHC8-Q400型機対応の滑走路(1,500m)が整備されている。

情報通信基盤については、屋久島と本土の間は、海底光ケーブルが敷設されているものの、光ブロードバンドサービスは提供されていない。屋久島は、ADSLサービスが提供されているが、電話交換局からの距離が長いことにより、本来のADSLサービスが利用できない地区がある。また、口永良部島は、電話回線を利用したISDNのサービス提供エリアになっているが、ADSLサービスは提供されていない。

携帯電話については、サービスエリアになっているが、一部に不感地域が存在している。

テレビについては、地上波テレビ放送のデジタル化に際し、共聴施設の新設・改修、CATVのデジタル化、高性能アンテナの設置等により対応を行った。

新聞は、船便で本土から輸送されるため午後に配達されるが、荒天で船便が欠航になり遅配される場合があり、口永良部島については、航路体系の関係で1日置きに配達される。郵便についても天候に左右されやすい。

オ 社会環境

(ア) 水道・電気

水道については、ほぼ全戸に普及しているが、施設の老朽化、水道水源の水量不足等の問題があることから、施設整備を進めているところであり、今後も引き続き施設の更新を行う必要がある。

屋久島の電力については、そのほぼ全てを水力発電により全地域に供給されている。口永良部島は、内燃力発電による電力が供給されている。

(イ) 廃棄物処理

ごみについては、屋久島では、焼却処理がされているが、平成27年7月からは環境への負荷軽減及び再資源化を目的とした廃棄物の細分別を行っている。口永良部島では、収集後屋久島へ搬送して処理が行われている。

し尿については、処理体制が確立されており、収集率は100%となっている。口永良部島では収集後、屋久島へ搬送して処理を行っている。

下水道については、これまでに雨水対策として都市下水路が1路線整備されている。

(ウ) 医療

医療については、屋久島には、病院1施設、一般診療所7施設、歯科診療所3施設があり、永田診療所については、県より自治医科大学卒業医師の派遣を受けている。

口永良部島には、へき地出張診療所（町立）が1施設あり、看護師が常勤しているが、眼科・皮膚科・耳鼻咽喉科の専門医師が常勤していないため、県医師会及び鹿児島大学医学部の協力を得て巡回診療を実施している。

救急医療については、県及び自衛隊のヘリコプター等により、鹿児島市の医療機関へ緊急搬送している。口永良部島では、看護師が本島医師との電話連絡や静止画像伝送装置によって応急処置をしている。

(エ) 妊婦への支援等

口永良部島においては、常駐の産科医がいないことから、妊婦が島外で健康診査を受診又は出産に備え事前待機をしなければならない場合等、その交通費・宿泊費等に要する経費の一部助成を行っている。

(オ) 福祉

地域の老年人口比率は、平成27年の国勢調査で31.4%と県平均29.4%を上回っている。

老人福祉施設としては、特別養護老人ホーム、地域福祉センター、在宅介護支援センター、グループホーム等が設置されている。

また、在宅の要介護者等からの総合的な相談に応じる地域包括支援センターが設置されている。

このほかの社会福祉施設としては、屋久島に保育所3か所、障害福祉サービス事業所8か所、相談支援事業所1か所、保健センター2か所、児童館1か所、へき地保健福祉館1か所が設置されているほか、口永良部島にへき地保健福祉館が設置されている。

(カ) 公園

地域住民のスポーツ、レクリエーション需要の増大に対応して都市公園の整備が図られている。

屋久島においては、町民の健康増進を促進させることを目的に屋久島町健康の森公園が整備された。

(キ) 教育

屋久島には、公立の幼稚園1園、小学校9校、中学校4校、高等学校1校がある。一部の地域については、学校が遠距離にあるためスクールバスが運行されている。口永良部島には、高等学校等はないため、進学する生徒は島外の学校に進学している。

カ 産業

(ア) 第1次産業

農業については、海岸沿いに分散している耕地を活用し、ぽんかん、たんかん等の果樹を中心に、豆類やばれいしょ等の露地野菜、花き、茶、畜産、ガジュツ等を組み合わせた複合経営が行われている。

また、口永良部島では、放牧を活用した肉用牛の繁殖経営が行われている。

台風、季節風等の自然災害の軽減、サル・シカ等による農作物被害の防止、輸送コストの低減、高齢化に伴う担い手の確保等の課題が残されている。

生産基盤については、農場整備や畑地かんがい整備が進みつつあるが、ほ場整備率は県平均を下回っている。

林業については、屋久島は、森林率が89.5%で、そのほとんどが国有林となっている。民有林においては、スギの間伐を主体に森林整備を行っている。

主な林産物として建築用材等の木材が生産されている。

水産業については、漁船はほとんどが5トン未満で経営規模は零細であるが、周辺海域にトビウオ、サバ、カツオ等の浮魚の他、瀬魚資源の好漁場を有しており、漁港及び関連施設等との整備と相まって、沖合漁場へも進出している。養殖業は、クルマエビの陸上養殖等が営まれている。しかしながら、水産資源は減少傾向にあり、魚価の低迷、後継者不足等の課題も依然として残されている。

(イ) 第2次産業

農業加工については、ソロヤム（やまいも）、ぼんかん、たんかん等の地域特産物を利用した農産物の加工やガジュツを主原料とする医薬品の製造が行われている。

公共土木を中心とする建設業のほかに、電力資源を活用した化学工業があり、炭化珪素等を生産している。また、地場産のガジュツ・ウコンを原料とする製薬工場や天然水を製造する工場が立地している。

地場産業としては、屋久杉加工業と水産物加工業等があるが、ほとんどが小規模な企業である。

(ウ) 第3次産業

ホテル等の観光関連産業、商業が中心である。

観光については、多くの登山客で賑わう白谷雲水峡やヤクスギランド、ラムサール条約の登録湿地となった永田浜、日本の滝百選に選ばれた大川の滝や天然露天温泉などの豊かな自然環境を有しており、世界自然遺産となっている島の自然環境を生かしたエコ・ツーリズムや、島の集落を巡る里めぐり等が体験できる。

また、口永良部島においては、自噴する良質な温泉等を活用した観光振興を行っている。

(7) 南西諸島地域

ア 概要

本地域は、県本土の南方約30kmに位置する竹島から南方へ約240km、東西約120kmにも及ぶ広大な海域に点在しており、三島村の竹島、硫黄島及び黒島並びに十島村の口之島、中之島、平島、諏訪之瀬島、悪石島、小宝島及び宝島の10の有人島から構成されている。なお、臥蛇島は昭和45年7月から無人島となっている。鹿児島市から本地域の最南端の宝島までの航路時間は約14時間を要し、極めて隔絶性の強い地域となっている。

イ 自然

本地域のほとんどの島は、大部分を雑竹林におおわれた山岳に占められており、しかも、山が海岸に迫って平地に乏しいが、本地域の南端に位置する小宝島、宝島は隆起珊瑚礁の島であり、海岸周辺に比較的平坦地が多い。

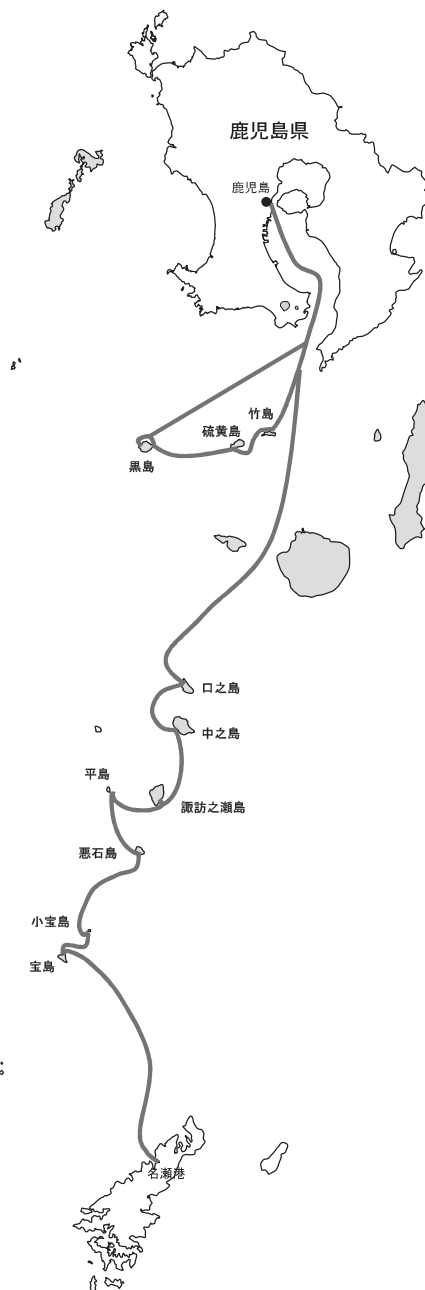
気候は、黒潮の影響を受けることなどから温暖であるが、夏秋季の台風や冬季の季節風の影響を強く受ける。

なお、三島村については、平成27年9月に同村全島と鬼界カルデラの海域を範囲とする「三島村・鬼界カルデラジオパーク」が日本ジオパークに認定されている。

また、十島村については、平成4年4月にトカラ列島県立自然公園に指定されている。

ウ 沿革

この地域の島々の記事が文献に現われてくるのは極めて古く、日本書紀である。戦国時代以後島津氏の支配になったが、その間行政的にほとんどかえりみられなかった。



島別人口等の状況

島名	村名	面積 (km ²)	人口 (H27年国調・人)
竹 島	三島村	4.20	87
硫黄島	〃	11.70	130
黒 島	〃	15.30	190
口之島	十島村	13.33	159
中之島	〃	34.48	171
平 島	〃	2.08	73
諏訪之瀬島	〃	27.66	71
悪石島	〃	7.49	79
小宝島	〃	1.00	55
宝 島	〃	7.14	148
地 域 計	2 村	124.38	1,163

その後の状況は、明治8年にこれらの島々は川辺郡に属することになり、明治18年には上三島と下七島は分離されて、上三島は大島郡金久支庁西之表出張所に、下七島は直接金久支庁の所管に属した。

さらに明治22年には、再び上三島と下七島を合併して十島村とし、大島支庁が管轄した。

戦後再び下七島（現在の十島村）は分離され、沖縄、奄美群島とともに米国の軍政下におかれることとなり、上三島だけが三島村として発足した。

下七島は昭和27年の日本復帰までの6年余りにわたり行政分離が行われたため、自然条件の厳しさとあいまって疲へい窮乏は著しかった。

昭和45年7月、十島村の臥蛇島は生活環境の過酷さから全島民が集団移住し無人島となった。昭和48年には、当地域は大島郡から鹿児島郡へ区域変更があった。

なお、三島村、十島村とも役場本庁は鹿児島市にある。

エ 交通・通信

本土等との交通体系については、鹿児島～三島各島を結ぶフェリー及び鹿児島～十島各島～名瀬を結ぶフェリーによる定期航路が運航されている。

漁港については、西之浜漁港ほか2漁港があり本土（鹿児島市）と十島村とを結ぶ定期船の発着及び日常生活物資の搬入基地として重要な役割を果たしている。

定期船の寄港港については、全島の定期船接岸が実現したが、防波堤等に暫定的に接岸するなど整備途中のものも多い。

航空路については、硫黄島に三島村が管理する薩摩硫黄島飛行場（非公共用）がある。

航路現況

（平成30年4月1日現在）

航路（又は区間）	航路距離	所要時間	運行回数	船舶名	総トン数(t)	旅客定員
鹿児島～三島各島	153.0km	鹿児島～竹島： 3:00 竹島～硫黄島： 0:40 硫黄島～大里： 1:10 大里～片泊： 0:30	4便/週	フェリーみしま	1,196	200人
鹿児島～十島各島	429.0km	鹿児島～口之島：6:00 口之島～中之島：0:50 中之島～諏訪之瀬島：1:00 諏訪之瀬島～平島：0:50 平島～悪石島：0:55 悪石島～小宝島：1:20 小宝島～宝島：0:35 宝島～名瀬：3:40	2便/週	フェリーとしま2	1,953	297人

道路については、黒島に唯一の県道（9.0km）があり、改良が進んでいるが、急勾配、急カーブで幅員が狭い区間も一部残る。

島内交通については、島内に公共交通機関がなく、自家用車による移動が中心である。

情報通信基盤については、三島村では、本土と竹島、硫黄島、黒島を結ぶ海底光ケーブルが敷設されており、村役場と各島の公共施設を結ぶ地域公共ネットワークの構築とともに、島内に超高速ブロードバンドが整備された。十島村では、中之島、悪石島、宝島が海底光ケーブルで本土と結ばれており、これら3島と口之島、諏訪之瀬島、平島、小宝島は無線で接続されている。村役場と各島の公共施設は光ファイバで結ぶ地域公共ネットワークが構築され、島内は無線方式（FWA）による高速ブロードバンドが整備されている。両村とも、インターネットサービスは公設公営方式で運営されているが、維持管理費が村の負担となっている。また、両村では、これらの情報通信基盤を活用して、議会中継や遠隔医療、港湾監視などの各種システムを運用し、住民サービスの向上を図っているが、公設による情報通信基盤等の維持管理費に対する負担軽減が求められている。

携帯電話については、居住地域のほとんどがサービスエリアになっており利用可能だが、一部に不感地

域が存在している。

テレビについては、地上波テレビ放送のデジタル化に対応するため、既存の共聴施設の改修やデジタル化に伴い発生した「新たな難視」地区解消のための中継局の新設などを行い、難視地区はほぼ解消しているが、季節性の要因等による受信不良が発生している。

郵便については、全島に郵便局または簡易郵便局が設置されている。

新聞については、定期船の運航回数の関係により数日分まとめて配達されている。

オ 社会環境

(ア) 水道・電気

水道については、ほぼ全戸に普及しているが、地形、地質の特性から水源や水質に恵まれておらず、淡水化施設の維持経費の増大、施設の老朽化、水源の水量減少による新たな水源の確保が課題となっている。

電力については、各島に設置された発電所により、全地域に電力が供給されている。なお、一部の島ではイベントの開催や公共施設利用による一時的な電力需要の増大に対し、移動電源車の配置や一般家庭の節電で対応している。

(イ) ごみ・し尿

本地域の島々が広大な地域にわたって点在しているため、全島にわたる一元収集・処理は困難である。各島においてごみは分別収集を図り、焼却施設及び生ごみ高速発酵処理等を進めており、十島村では、平成20年度から資源ごみと併せて、粗大ごみの島外排出処理を行っている。

し尿についてはバキュームカー等の利用により自家処理が解消されている。また、三島村においては、全島に合併処理浄化槽が設置されている。

(ウ) 医療

本地域はへき地医療拠点病院である鹿児島赤十字病院から、各島のへき地診療所へ医師派遣が行われているほか、平成27年4月から自治医大卒医師等による十島村南部3島の巡回診療が行われている。また、鹿児島大学医学部・歯学部、県歯科医師会の協力を得て、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科の特定診療科及び歯科の巡回診療も実施している。

また、本地域は島数が多く船便の都合で医師が各島に滞在できる時間が限られるので、定期船の特別ダイヤの編成や巡回診療船を兼ねた行政連絡船の配置などにより診療の円滑化を図っている。

へき地診療所は全島に整備され、それぞれ看護師が配置されている。

救急医療については、鹿児島赤十字病院の医師とへき地診療所の看護師が連携した遠隔医療システムによる応急処置のほか、重症の救急患者は県及び自衛隊のヘリコプター等により鹿児島市等の医療機関へ緊急搬送している。ヘリポートについては、硫黄島と諏訪之瀬島の飛行場を含め全島に整備されている。

健康管理体制については、鹿児島市内のそれぞれの役場に、三島（3人）、十島（3人）の保健師が勤務しており、保健所と連携をとりながら各種健診や保健指導を行っている。

(エ) 妊婦への支援等

常駐の産科医がいないことから、妊婦が島外で健康診査を受診又は出産のために必要な通院又は入院をしなければならない場合等、その交通費・宿泊費等に要する経費の一部助成を行っている。

(オ) 福祉

本地域の老年人口比率は、平成27年の国勢調査で28.1%と県平均29.4%を上回っている。

地域の要援護高齢者及びひとり暮らし高齢者にホームヘルパーを派遣し生活支援サービスを行っている。また、高齢者の自立生活の維持、地域との交流、安否確認など在宅福祉の推進や、老人会食サービスを実施している。老人福祉施設は、宝島に小規模多機能型居宅介護事業所と介護予防拠点施設が設置されているほか、中之島、口之島及び平島に介護予防拠点施設が設置されている。

(カ) 教育

本地域には、小学校11校、中学校11校が設置されているが、いずれも小中学校併設で小規模である。また、高等学校はなく、生徒は島外の学校に進学している。

カ 産業

(ア) 第1次産業

農業については、孤立した小さな離島で構成され、平地に乏しく、耕地は狭く急峻で、農家の高齢化も進んでいる。農業生産額の約9割を肉用牛の生産が占めており、地域の基幹産業となっている。

なお、農家の経営安定化を図るため、優良繁殖雌牛を導入し、人工授精による母牛集団の改良も進められており、子牛価格の本土との価格差が縮小されつつある。

この他、びわ、たんかん、サンセベリア等が生産されている。また、耕作放棄地を作付け可能な農地に転換させるための取組なども始められている。

温暖な気候を生かしたびわの産地づくりを進めているが、高齢化により生産量が減少している。

林業については、天然広葉樹林と竹林が大部分であり、これらを利用して、硫黄島では椿の実、竹島、硫黄島、黒島、諏訪之瀬島、悪石島では、たけのこの生産が行われている。

水産業については、漁船はほとんどが5トン未満で経営規模は零細であるが、周辺海域にトビウオ、キハダマグロ、カツオ等の優良な漁場を有しているため、一部の地域においては、水産加工品の開発など積極的な取り組みが見られる。しかしながら、水産資源は減少傾向にあり、魚価の低迷、後継者不足等の課題も依然として残されている。

(イ) 第2次産業

農産物加工については、落花生やつわぶき、たけのこ等の地域特産物を利用した加工品が製造されている。

(ウ) 第3次産業

本地域は、美しい海、優れた自然景観、海中温泉や砂蒸し温泉などの多様な温泉、トカラ馬や野生牛（黒毛和牛原種）など他に見られない特異な生態系等の優れた自然を有しており、十島村はトカラ列島県立自然公園に指定され、三島村は日本ジオパークに認定されている。また、俊寛伝説や仮面神ボゼ祭り等の歴史・文化、大名たけのこや伊勢エビ、夜光貝等の食、ミシマカップヨットレース、ジャンベワークショップ、トレッキングツアー、トカラ列島マラソン等のイベント開催など、特色ある観光資源を有している。